



Title	言語文化学 Vol.17 編集後記
Author(s)	北村, 卓
Citation	大阪大学言語文化学. 2008, 17, p. 273-273
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77861
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

編集後記

『言語文化学』第17号をお届けいたします。当初、論文30件、研究ノート1件の投稿希望がありましたが、実際に投稿されたのは論文22編と研究ノート1編でした。その後、厳正な査読を経て、論文17編と研究ノート1編の掲載が決定いたしました。査読に当たられました先生方にこの場を借りまして厚く御礼申し上げます。

また学会の活動として、本年度は2度の大会を開催することができました。数々の研究発表がなされ、活発な質疑応答が交わされました。学会誌の充実はもちろんですが、こうした場に多くの会員が参加することこそ、学会活性化の基盤をなすのもであり、大変喜ばしいことだと思っております。

学会運営におきましては、委員の役割分担を明確にして助教の三宅先生の負担を軽減するよう配慮したつもりなのですが、結局のところ三宅先生には最初から最後まで多大なご苦勞をかけることになりました。本当に有難うございました。しかしながら、会計・名簿管理等（三宅先生）、学会誌編集（井元先生）、学会誌校正・編集（小口先生）、書記・議事録（福田先生）、春の大会運営（大森先生）、秋の大会運営（越智先生）、全般的アドバイザー（前委員長の森先生）、全般（北村）という役割分担は非常にうまく機能したように思います。それぞれの責任者が完璧に職務を果たしてくださいました。とりわけ井元先生と小口先生には学会誌の編集作業で大変お世話になりました。また、院生委員の伊藤さん、ウーさん、大部さん、尾上さん、吉田さんには、大会当日の受付や設営さらに懇親会の買出しなど、さまざまな仕事をこなしていただきました。委員長としまして、皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

さて、今年度から大阪外国語大学との統合で、言語文化研究科は新たに生まれ変わりました。それに応じて、この言語文化学会も言語文化専攻の教員・学生が参加する学会となりましたが、今後は言語社会専攻の皆さんとの交流を深め、将来的には一体となって、さらに大きな学会へ発展していくことを願っております。

2008年3月

大阪大学言語文化学会委員会（北村 卓）